

患者総合サポートセンターたより

2025年度の「こぼりの広場」の活動内容をお届けします

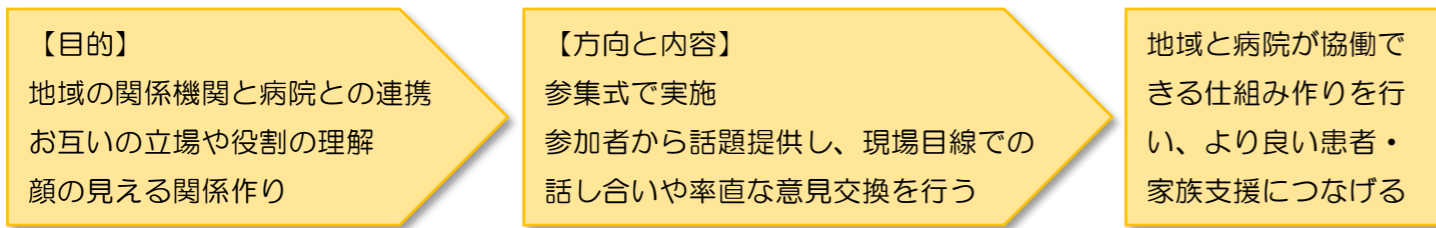
2026年4月発行 新潟医療センター 患者総合サポートセンター

2022年から地域包括支援センター小新・小針と共催している「こぼりの広場」ですが、2025年度は当院のACPサポートチームも共催となりました。院内のみのACPではなく、院外の地域も含めた啓蒙を目的として、地域と共に学ぶ機会となりました。

7月・11月・3月の3回実施した活動を報告いたします。

こぼりの広場とは

地域における医療・介護・福祉の諸問題や解決策を現場目線で話し合う参集式の研修会



2025年度のテーマ

患者（利用者）の思い／ACPを医療・介護・福祉で共に考える

【1回目】 2025.7.14

当院のACPサポートチームの活動紹介、意見交換を行いました。

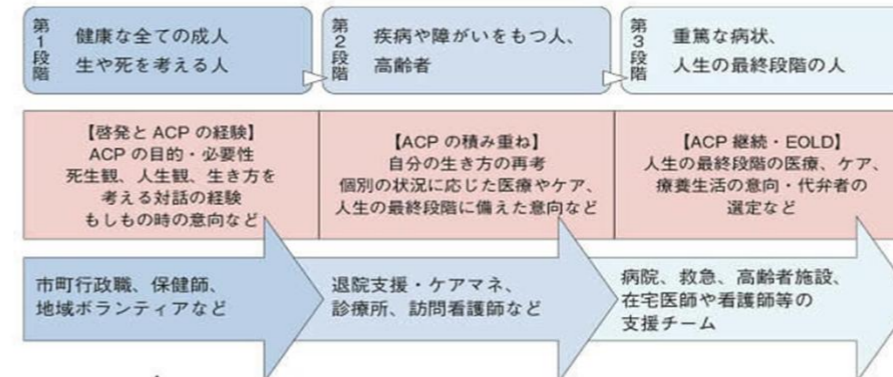


【2回目】 2025.11.20

内科・循環器内科の富井医師と担当ケアマネージャーから実際の事例を話題提供していただき、インタビュー形式で実施しました。【ACPにかかわる意思決定支援】について、医療・介護・地域と一緒に、自然な対話からACPへつなぐ支援の形を考える機会となりました。意見交換では、事例の感想や患者さんの思いをつないでいくことについて話し合いました。

【3回目】 2026.3.12

【地域におけるACP実践】について、2回目の事例を3つの軸に分けて、地域の多職種でACP実践を捉えていきました。



参加いただいた方々からのアンケートの声です。

1回目と3回目でのこのような変化がありました。

1回目	3回目
<ul style="list-style-type: none"> ACPの言葉は知っていても、内容は理解してない等、認知度は低いと思った。 重要性は理解していても、難しい課題であると感じる。 ACPを身近に感じるように、知ってもらえるような場を作ることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域を巻き込んだACPがスタートできた。これからも継続が大切。 本人の思いをつないでいけるように本人、家族、多職種のカンファレンスで共有できると良い。 病院と地域で関わった支援者の意思決定支援がリレーのようにつながっていく様子が見えた。

3回のこぼりの広場を通して、ACPは決して難しいものではなく、今までの何気ない会話の中で行われていることに気づききっかけとなったのではないのでしょうか。ACPは病院だけや1回だけの聞き取りで終わるものでもなく、地域の支援者の方々と一緒に患者・利用者の思いを生活の中で考えていくものです。これからも皆さまと共に学んでいけたらと思います。

今年度のこぼりの広場もACPサポートチームと共催となります。今年度も多くの皆さまに参加いただけますよう、よろしくお願いいたします。

